

一斉授業でアクティブラーニングを実現する発問展開のしかた

～挙手を活用して生徒全員の思考を促す工夫～

教育エジソン

国語の授業では、生徒に発問し、やり取りする中で考えを深めさせたい。しかし、一部の生徒とのやり取りになったり、当てられるまで考えない生徒もいたりする。指名しても「わかりません」と逃げる生徒、指名されること自体を恐れる生徒もいる。

そうした問題を解決し、全員が参加し、考える授業を実現する工夫を紹介する。

1) 発問・やりとりの工夫

〈基本技〉発問は、まず全体に投げかける。全員に考えさせる。そのあと、おもむろに指名する。指名してから発問する先生がいるが、それだと他の生徒は考えなくなる。指名順は、私の場合、席順が多い。

〈応用技1〉

- ①質問を Yes か No か、または、選択肢で示す。全員に質問を投げかけ、挙手させる。
- ②挙手の様子を、みんなにフィードバックする。「〇さんと△さんが賛成だね」「あ、これが一番多いね」など。どの選択肢に挙げた生徒も平等に尊重する態度を示す。
- ③挙手した生徒を指名し、「どうしてそれが正解だと思うの？」と理由を聞く。それを受け止める。
- ④他の生徒たちに、「同じ理由の人？」と振って挙手させる。挙げない生徒に他の理由を聞く。
- ⑤出た理由を整理して伝え、あらためて、「どっちが正解だと思う？」と考えさせる。その過程で、「あっ」と言ったり、表情が変わる生徒がいたら指名し、「何がわかった？」と聞く。
- ⑥あらためて挙手させると、全員が正解に手を挙げることもある。最後に教師が正解を言う場合も、単純に正解者だけを賞賛しない。考えのプロセスを説明する。

〈応用技2〉

Yes Noにならない設問の場合も、指名した生徒が答えを言ったら、「同じ答えの人？」と挙手させ、「〇さんと△さんが同じだね。じゃ、他の人は違うの？」と、手を挙げていない生徒を指名して答えさせる。複数の答えが生徒から出てきたら、それを選択肢にして〈応用技1〉と同様の展開に。

単純な知識問題の場合も一人が正解を言ってもすぐほめず、「同じ答えの人？」と挙手を求め、手がたくさん挙がったら、「正解！素晴らしい」と賞賛する。すると、全員が正解の喜びを味わえる。

2) ポイント

- (1) 正解を単純に言わない。教師が権威者で正解・不正解を言うだけだと、生徒は考えなくなる。
- (2) 生徒が自分なりに考えたことを大切にする。詰問しない。なぜそう考えたか、丁寧に聞く。
- (3) 不正解を切り捨てない。どんな発言でも、「同じ答えの人？」と、挙手を求めて、賛同者を掘り起こし、その生徒にも説明させる。賛同者がいるので、結果として不正解でも、傷つかない。

3) 結果

- (1) 生徒たちが顔を上げて、私の方を見て私と一人の生徒のやり取りに集中しているのがよくわかる。
- (2) 生徒がよく考えるようになり、まちがいを恐れずに自分の考えを言うようになる。

4) Q&A

Q 最初に全員に質問を投げると、いつも一部の生徒だけが答えてしまうのでは？

A 全員に質問を投げた後は、席順で指名する。パッと正解を発言してしまう生徒がいたら、それを選択肢としてみんなに投げかけて挙手させ、他の答えも求めて、全員とのやり取りにする。次の質問は、また席順で指名する。私のやり方がわかってくれば、パッと答えてしまう生徒はいなくなる。誰でも自由に答えてほしいときには、「誰でもいいから、わかる人？」と明確に言って、挙手を求める。

Q 「手を挙げると指名される」と考えて手を挙げない生徒が増えるのでは？

A 生徒の答えを大切に扱えばそうならない。思考が働けば、自発的に挙手する。指名されるのが嫌で挙げないのが明らかな場合は、指名して「あなたはどっちだと思う？」と聞き、巻き込んでいく。もちろん、メンタル面で配慮が必要な生徒には、順番でしか当てない。